

# おおぞら

## 「伝統」

育友会会長 奥 幸代



「もし僕の目が見えなくなったらショックで立ち直れないと思う。でも生徒さんがとても明るくて元気でビックリしました。逆に勇気をもらい印象が変わりました。」数年前、文化祭のママの店にボランティアで参加してくれた学生さんの言葉です。そんな思いを感じてくれてありがとうって、うれしくて今でも忘れられません。私も同じで在校生の第一印象は「明るく、元気で伸び伸び」でした。でも彼らは最初からそうではなく、想像出来ない程の悩みや不安を感じた時期があったと思います。息子も入学当初は不安で泣いていました。でも今では伸び伸びしすぎて注意されるほどです。では、なぜ前向きになれたのか、盲学校に通って11年目の息子に聞いてみました。そんなの普通だよと、3つの答えが返ってきました。

1. いろいろな場面で先生達が前向きな言葉をくれる。
  2. 障害があってもなくてもみんな一緒。
  3. 出来ること、出来ないことを理解し助け合っている。
- なるほど、素晴らしい。

人にはそれぞれの力があって活躍する場も様々です。それを互いに理解し認め合うことがその人の自信に繋がるのだと思います。盲学校の児童生徒を見ているとつくづくそれを感じます。

さて、今年度も皆様のご協力のもと、育友会活動を行うことが出来ました。本当にありがとうございます。3年ぶりにボウリング大会も開催でき、少しずつ元の行事が戻りつつあります。デジタル化も便利ですが、やはり人と人との繋がりを肌で感じ、交流する事の大切さを改めて感じる1年となりました。更に児童生徒が笑顔になりますよう、来年度に繋げていきたいと思っています。

## 「新たな出会いに向かって進もう!」

校長 瀬川 真司



卒業生、修了生の皆さん、おめでとうございます。まだコロナ禍が続いていますが、そんな中でも様々な学校行事等を通して、皆さんは仲間と協力して、いろいろなことに一生懸命がんばってきました。これまでがんばってきたことが、皆さんのこれからの人生における貴重な財産になるのではないかと思います。

さあ、これから皆さんは、それぞれが新たなステージに進みます。その中で、素敵な出会いがきっとあると思います。ですから、これからのことを悲観するのではなく、わくわく感・期待感を持って新たな出会いを探し求めていってほしいと思います。そのためには、これまでのように、新たなことに積極的に挑戦していくことが大切です。積極的な姿こそが、新たな出会いへのカギになると思います。これからも前に向かって頑張っていってください。皆さんの未来に幸多いことを願うとともに、皆さんの今後益々のご活躍をお祈りしています。

## 文化祭「いしもう〇×クイズ」

今年の文化祭は、育友会からは「いしもう〇×クイズ」が開催されました。音楽室の場所など学校に関する問題や、音当てクイズ、校長先生からのクイズ、他にも万歩計対決やジャンケン対決は生徒代表者に前に出てきてもらいご指名の先生と対決、その結果を予想しました。生徒だけでなく保護者や兄弟の方もみな楽しめ、盛り上がった会となったと思います。

景品には、毎年ママの店でも好評だったというミカン大福や、六ツ星作業所で作成されたご祝儀袋などを準備しました。

密にならないよう色々工夫しましたが、景品を選んでもらう際に、もう少しスムーズにいけば良かったかなという反省点もありましたので、また次回に生かしていけたらと思います。



(報告 藤峰)

## 育友会研修会

10月7日に上越教育大学准教授の佐藤将朗先生をお招きし、育友会研修会を行いました。先生は視覚障害児の読みに関する心理学研究を中心に、視覚・知的障害児の解読技能と触覚的コミュニケーションの研究をされており、また、健常児への障害理解教育や教育と医療の連携についても構想されている方です。今回は参加者の子どもに関する悩みなどをざっくばらんな雰囲気でも相談させて頂きました。相談内容は、子供の目の疾患のことや、障害児とその兄弟間の問題などなど。話しやすい先生の人柄もあって、終始和やかに会が進みました。また、一つ一つとても丁寧に答えて頂き、相談した参加者のホッとしている表情が印象的でした。親にとって子どもの悩みは尽きぬものです。なかなか相談も出来ず悩んでいる人もいるかもしれません。このような会を設ける事は、保護者の心のケアにもなるとても良い会だと思いました。佐藤先生ありがとうございました。

(報告 奥)

## 石川県特別支援学校PTA連絡協議会第2回研修会

11月16日に石川県立いしかわ特別支援学校で石川県特別支援学校PTA連絡協議会第2回研修会が行われました。研修Ⅰでは『業後に向けての県の取り組み』の事例で知的障害の授業と就労体験が紹介されました。背景には学習指導要領が改定されたことがあります。各教科等を合わせた複合的な指導を行ったのち、高等部で農業分野への就労体験を3年間連続して行いました。研修Ⅱでは、石川県防災士の大月氏の講演『災害時に命を守るためにする行動と備え』がありました。子を守る“備える方法を知っておく”事が大事。避難したことを無事に伝えるダイヤルは『171』。伝える内容は『あ、い、た、い、よ』あなたの名前、今いるところ、誰と一緒に、痛いところはないか、予告(次の連絡はいつか?)。私的なことでは、2022. 8. 4小松市内全域にレベル5の避難指示が出た時には、もう避難する事が難しかった経験がありました。この日は夏休みで子ども1人で留守番でした。他の家庭でも同じだったと思います。学校でも自宅でも守ってやれる大人が居ない時、我が子の命を守る方法を考えさせられる出来事でした。先日、全国初の全盲で防災士の資格を取得した方から、視覚障害者特有の避難方法を学びたいと思いました。

(報告 柴田)